資料４

会議録（要点記録）

会議名称	令和８年度　第２回小金井市精神保健福祉連絡協議会　部会		
開催日時	令和８年８月２８日（金）１４：００～１５：００		
開催場所	オンライン		
出席者等	赤濱委員、鈴木（絵）委員、山岡委員、石川委員、鈴木（澄）委員、小島委員 事務局：相談支援係長、相談支援係主任		
傍聴の可否	不可	傍聴者数	―
会議次第	１　開会 ２　議題 ⑴　協議会で協議された課題について ア　福祉事業所の人材不足への対応 イ　ピアの活動支援について ⑵　事業所近況報告 ⑶　その他 ３　閉会		
会議結果	１　開会 ２　議題 ⑴　協議会で協議された課題について （事務局）　協議会では地域課題として「福祉事業所の人材不足」と「ピア活動」の２本柱で方策検討を進めている。そのうち、人材不足対応について協定を提携した損保ジャパンの関連会社でヘルパー派遣等の事業を行っている損保ケアとの連携を模索したが、今回の部会への出席は叶わなかった。精神障害ホームヘルパー養成研修は今年度未計画だが、講師料予算を活用し介護保険事業所向けの研修会開催を通じて精神障害支援への参入を促したい。以上の中で、人材不足についての課題解決の具体策はまだ乏しく、介護保険事業所の障害分野への誘致方針や損保ケアとの連携を軸に、委員から確認事項や質問事項の意見を募りたい。 （委員意見） ・訪問介護事業所の困りごみを踏まえ、精神障害の特性理解と対応方法を研修テーマとするとよい。 ・介護事業所が単独で抱え込まず、基幹相談支援センターや訪問看護等へ気軽に相談できる仕組みづくりの必要でないか。 ・損保ケアから現場の不安やニーズを事前に聞き取り、研修内容へ反映させ実践的な研修とする提案が出された。 ・複数事業者や現場ヘルパーから直接話を聞き、事例を交えた勉強会形式で不安や困りごとへの対処を学ぶ研修案が示された。		

	・高齢ヘルパーを中心に障害者支援への恐怖感や敬遠傾向があり、本音で語れる場を設けることが必要との意見が出された。 （事務局）ピア活動のサポートについて、各種補助金を活用し、来年度予算化を進める方針である。予算要求の締切は秋口であり、９月２４日の協議会で「小金井市としてピア活動支援に取り組む。」方向性の合意を得ておきたいところ。一方で、市内で１か所の事業所から相談があるが、１箇所のみの補助は公平性に課題があり、他事業所の参加やニーズを把握するため広く情報収集・ヒアリングを行う必要がある。委員の中で、精神障がいのある方の支援する事業所でピア活動を開始する意向があるところを把握しているか。 （委員から発言なし） （事務局）協議で示された武蔵野市の方式等の他市事例は参考にしつつ、他自治体の先行事例を参考にしつつ、当事者を活用した地域課題解決型の支援モデルを目指す方向性が確認された。 （委員意見） ・今年度武蔵野市が事業を開始している。小金井市と自治体の事情が類似しているので参考にするとよい。 ⑵　事業所近況報告 ・７～８月は新規相談が増加し、定着支援終了後の引継ぎや難病相談も複数件発生している。 ・高校生・大学生の発達障害当事者に関する引きこもり相談が増え、教育機関での社会的スキル支援の不足が指摘されている。 ・引きこもり未治療・治療中断ケースに対し、多摩総合精神保健福祉センターのアウトリーチ部門を活用した新たな連携が始まっている。 ・母子家庭で親の精神疾患により子ども支援が阻まれる案件が増え、子ども・障害・保健所との連携強化が課題となっている。 ・相談件数増加と人材不足を踏まえ、業務効率化や限られた資源の最大化に取り組むとともに、学生採用など将来の人材確保策も進めている。 ３　閉会
提出資料	なし